

## MR I 用造影剤に関する同意書

別紙【MR I 用造影剤の使用(注射)の説明書】の説明により、必要な場合には造影剤を使用した検査を受けることについて理解できましたので、その実施に同意します。なお、実施中に緊急の処置を行う必要が生じた場合には、適宜処置されることについても同意します。

大久保病院長 様

年 月 日

本人 氏名

家族等 氏名

患者との続柄： [ ]

担当医

説明者

検査実施予定日： 年 月 日

## MR I 用造影剤使用に関する質問項目

下記の質問項目に対して、当てはまる方を口にチェックして下さい。

● 今までに CT の検査・治療で造影剤を使ったことがありますか。 はい いいえ

● 今までに MR の検査・治療で造影剤を使ったことがありますか。 はい いいえ

※ 造影剤を使用した方は、使用後に発疹など副作用と思われる症状が出ましたか。はい いいえ  
「はい」の場合は、検査名・症状を入力

● 腎臓が悪いと言われたことがありますか。 はい いいえ

採血データ CRE :

基準値 0.5~1.2mg/dl

eGFR :

基準値 60.0ml/分/1.73m<sup>2</sup>以上

● 飲み薬、注射で副作用症状が出たことがありますか。 はい いいえ

「はい」の場合は、検査名・症状を入力

● 喘息（ぜんそく）と言われたことがありますか。 はい いいえ

「はい」の場合は、最終発作・現在の治療状況を入力

年 月 日

身長： cm

氏名： \_\_\_\_\_

体重： kg

問診者： \_\_\_\_\_

## MR I 用造影剤の使用(注射)の説明書(地域連携用)

### 1. 目的

今回実施するMRI検査では、より詳細な情報を得るために造影剤という検査薬を使用します。MRI検査は造影剤を使用しなくても行えますが、疾患によっては造影剤を使用しないと診断ができない場合があります。

### 2. MRI造影剤とは？

血管の様子、病気の広がりを正確に評価するのに役立ちます。造影剤は、使用する種類により排泄される方法が異なりますが、最終的には体内には全く残りません。

造影剤の安全性は確立されていますが、まれに副作用が起こることがあります。より安全な検査を行うため、使用前には腎臓の機能を表すデータ、造影剤既往歴などの質問をさせていただきます。

### 3. 副作用や発生頻度について

<軽い副作用>

吐き気・じん麻疹・熱感など(100人に1人)。

これらの症状は自然に軽快していきませんが、症状の程度により薬による治療を行うことがあります。

<重い副作用>

呼吸困難・意識障害・血圧低下など(2万人に1人)。

その症状に応じて適切な対応をいたします。症状・体質によっては非常に稀ですが、約100-200万人に1人の割合で死亡する場合があります。(これは通常の注射薬と比較して、頻度がとても高いわけではありません)

### 4. 造影剤投与について

造影剤投与は、静脈からの注射で行いますが血管外に造影剤がもれることがあります。この場合には、注射した部位が腫れて痛みを伴うこともあります。通常、自然に腫れは吸収され消失しますが、もれた量が多量である場合は、治療が必要になる場合があります。

### 5. 備考

万が一、合併症・偶発症が起きた際はそれに対する最善の処置、治療を行います。

<< 注意 >>

MRCp 検査の際、食事を制限させていただいております。

MRCp 検査をされる方は、検査4時間前(            時            分)から食事を摂らないで下さい。

※水やお茶は検査直前まで摂ってもらって結構です。(ジュース・乳製品・アルコールは避けて下さい)

※糖尿病などで食事のコントロールをされている方は、担当医師に相談して下さい。

※ご不明な点は検査当日、担当技師にお訪ね下さい。